

科目・コース（ユニット）名： 医療入門Ⅰ（症候論とケーススタディ）
英語名称：Clinical Reasoning & Case Study

【担当責任者】島袋充生、鴻野央征、渡邊桐子（糖尿病内分泌代謝内科学講座）、大谷晃司、中村光輝、安田恵（医療人育成・支援センター）、下島 恭弘（リウマチ膠原病内科学講座）、柴田 陽光（呼吸器内科学講座）

【連絡先】 igakukyo@fmu.ac.jp

【開講年次】 4 年, 【学期】 前期, 【必修／選択】 必修,

【授業形態】 講義・演習（TBL）

【概要】

これまでの系統講義では「疾患名→病態→症状・身体所見・検査所見」の流れで疾患を学習してきた。しかし、臨床現場では、患者さんが訴える症状（symptom）から疾患を想起し、病歴や観察した徴候（sign）を基に疾患の同定（診断 diagnosis）を行う鑑別診断が必要になる。症候論とケーススタディーでは医学教育コア・カリキュラム*であげられている主要 37 症候について、症候、病歴、身体診察、検査所見を収集、整理しながら、系統的、論理的に診断を確定させる行う臨床推論のアプローチ法を修得する。尚、一部の授業を、グループワークを基盤とする TBL (team-based learning) で行う。グループメンバーと協働しながら、チーム医療に必要な責任ある態度を身に付けて欲しい。2025 年度から、主要 37 症候について臨床推論アプローチの習得度を評価するため期末試験を課す。

*https://www.mext.go.jp/content/20240220_mxt_igaku-000028108_01.pdf

【学習目標】

1. 主要な 37 症候（主訴、症状、徴候）から可能性のある疾患を想起できる
2. 経過を基に、想起した疾患の重みづけ（頻度、重症度、緊急度）ができる
3. 必要な身体診察項目を挙げることができる
4. 身体所見を解釈できる
5. 診断に必要な検査を、優先順位を考慮してあげることができる
6. 主要な検査所見を解釈できる。主要な検査所見の特性（感度、特異度、偽陽性、偽陰性、検査前確率・検査後確率、尤度比、ROC 曲線）と判定基準（基準値・基準範囲、カットオフ値、パニック値）を理解している。
7. 得られた情報から考えられる診断を、要約してプレゼンテーションできる
8. ルールを順守し、課題解決に向けてチームに貢献できる

【教科書】

「内科診断学 第4版」 福井次矢、奈良信雄、松村 正巳 編集 医学書院

「診察ができる Vol.2 鑑別診断 第1版」 医療情報科学研究所編集 メディックメディア

【参考書】

- ・「誰も教えてくれなかった診断学—患者の言葉から診断仮説をどう作るか」 野口善令、福原俊一 著 医学書院
- ・「内科学」 矢崎義雄 総編集 朝倉書店
- ・「ハリソン内科学」 福井次矢、黒川清 監修 メディカル・サイエンス・インターナショナル

ル

【成績評価方法】

出席：原則出席、日程の4/5以上出席を判定の要件とする。

評価は、①授業態度、②課題提出（期限内の提出の有無と内容）（37 症候マトリックス、TBL：IRAT、GRAT、確認テスト）③期末試験（37 症候について、各授業ハンドアウト、「内科診断学 第4版」「診察ができる Vol.2 鑑別診断 第1版」に準ずる内容で出題）、を基に総合的に判断する。（概ね①②50 点、③期末試験 50 点配点予定）

【学習上の注意事項】

TBL は、事前学習を前提とする。事前学習課題は授業の約 1 週間前に開示する。

【水平的統合授業の実施内容】「症候論」は、疾患ごとに修得した知識を横断的に駆使しなければならない点で統合的内容である。

【本学独自の、あるいは先端的な研究要素のある授業の実施内容】

症候論の一部は、アクティブラーニングの理論に基づき、team-based learning (TBL) 形式で行う。

【授業スケジュール】

授業スケジュールおよび担当者の詳細は、令和 7 年 4 月以降に別途通知する。

回数	年/月/日	曜日	時限	内 容		担当教員名
1	2026/5/12	火	1-2	(講)	①「症候論とケーススタディ」 全体ガイダンス ②TBL ガイダンス	①島袋 充生 ②医療人 育成・支 援センタ ー
2	2026/5/18	月	1-3	(TBL)	【講義】 ・カルテの書き方 ・鑑別のための問診 ・症候論 発熱 全身倦怠感 食思(欲)不振 体重減少・体重増加	菅家智史 濱口杉大
3	2026/5/20	水	1	(講)		
4	2026/5/20	水	2-3	(TBL)		<u>症候論</u> 講義： 各臨床講 座
5	2026/5/25	月	1	(講)		
6	2026/5/25	月	2-3	(TBL)		
7	2026/5/27	水	1	(講)		
8	2026/5/27	水	2-3	(TBL)		
9	2026/6/1	月	1	(講)		
10	2026/6/1	月	2-3	(TBL)		

11	2026/6/3	水	1	(講)	意識障害・失神	<u>症候論</u> <u>TBL</u> 医療人 育成・ 支援セ ンター 各臨床 講座
12	2026/6/3	水	2-3	(TBL)	けいれん	
13	2026/6/8	月	1	(講)	めまい	
14	2026/6/8	月	2-3	(TBL)	浮腫・脱水	
15	2026/6/9	火	3	(講)	発疹	
16	2026/6/10	水	1, 4-6	(講)	咳・痰	
17	2026/6/10	水	2-3	(TBL)	血痰・喀血	
18	2026/6/11	木	4	(講)	呼吸困難	
19	2026/6/18	木	1-6	(講)	胸痛	
20	2026/6/22	月	1-3	(TBL)	動悸	
21	2026/6/24	水	1	(講)	嚥下困難	
22	2026/6/24	水	2-3	(TBL)	腹痛	
23	2026/6/29	月	1	(講)	悪心・嘔吐	
24	2026/6/29	月	2-3	(TBL)	吐血・下血	
25	2026/7/1	水	1	(講)	便秘・下痢	
26	2026/7/1	水	2-3	(TBL)	黄疸	
27	2026/7/6	月	1	(講)	腹部膨隆・腫瘤	
28	2026/7/6	月	2-3	(TBL)	リンパ節腫脹	
29	2026/7/7	火	3	(講)	尿量・排尿の異常	
30	2026/7/8	水	1	(講)	血尿・蛋白尿・尿毒症	
31	2026/7/8	水	2-3	(TBL)	月経異常・不正性器出血	
32	2026/7/15	水	1-3	(TBL)	不安・抑うつ	
33	2026/7/16	木	1-2	(講)	認知機能障害	
					頭痛	
					運動麻痺・筋力低下	
					歩行障害・感覚障害・運動失調	
					腰背部痛	
					関節痛・関節腫脹	
					低血圧、ショック、心停止	
					・視覚異常・リハビリテー ション	
					【TBL】	
					・症候論（リンパ節腫脹、体 重減少、血尿、意識障 害・失神、呼吸困難、動	

					悸、めまい、悪心・嘔吐、腰背部痛、発熱)	
34	2026/7/17	金	1	(講)	痛みに対する 水平統合授業	矢吹省司
			2	(講)		矢吹省司
			3	(講)		二階堂琢也
			4	(講)		高橋直人
			5	(講)		三浦至
35	2026/7 月 定期テスト 期間			試験	37 症候に対する 試験	

【担当教員】

令和 8 年 4 月以降に別途通知する。

【医師として実務経験のある教員による授業科目】該当する